

つり環境ビジョン 平成 25 年度 放流事業 報告

- ・平成 25 年 6 月 6 日（木） マダイ種苗：中間育成施設 移動作業
- ・平成 25 年 7 月 14 日（日） マダイ種苗：カウント作業
- ・平成 25 年 7 月 29 日（月） マダイ種苗：鼻孔欠損確認作業他
- ・平成 25 年 8 月 1 日（木） マダイ種苗：計量作業
- ・平成 25 年 8 月 2 日（金） マダイ種苗：放流作業

●6月6日（木） マダイ種苗：中間育成施設 移動作業

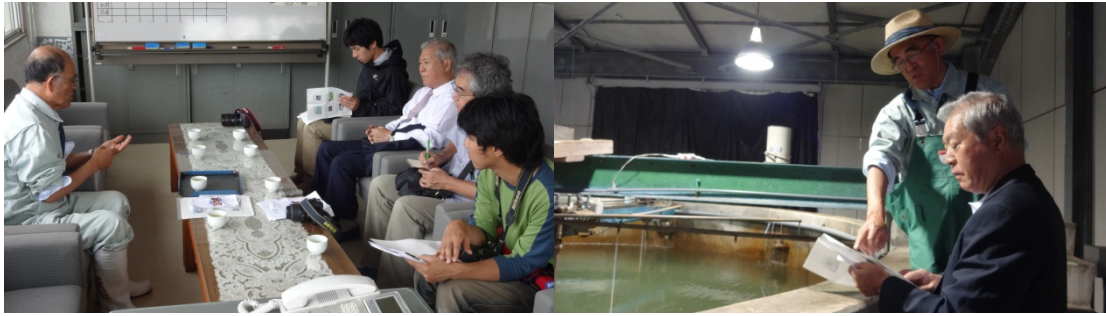


平成 25 年 4 月 21 日に、静岡県御前崎市浜岡よりマダイの受精卵・300 万粒を入手。（公財）神奈川県栽培漁業協会内にある陸上飼育施設の円形プールにて、ワムシ等の培養エサを与えながら約 40 日間飼育され、全長約 20mm まで順調に生育していきました。



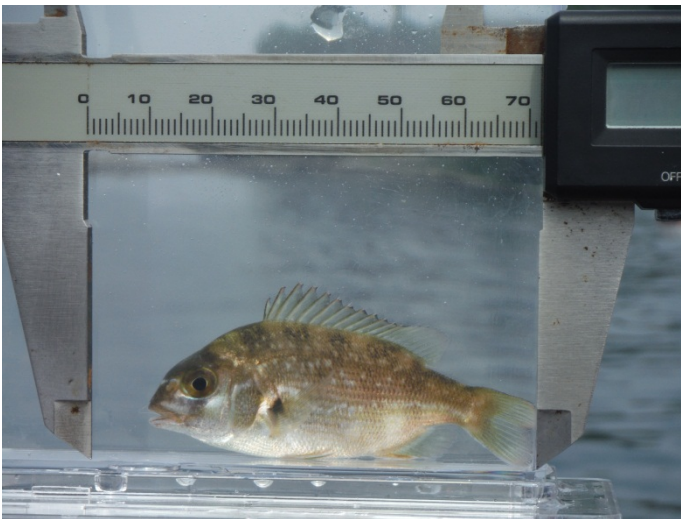
「サイホン方式」と呼ばれる特殊な方法で、マダイの稚魚をタンクから筏へと移動します。まだまだ小さく抵抗力の弱い稚魚は、人の手はもちろん、網などに触れるだけでも死んでしまう事が多く、全ての作業は必ず「水ごと魚を移動させる」ようにします。また、移動した後も、給餌はもちろん、鳥に襲われないよう防鳥ネットをかぶせたり、目の細かい網の目詰まりを防ぐ為に筏の網を交換したりと、日常的に面倒を見る必要があります。これらを経て約 2 か月後の 8 月頃には、体力があり外敵等からも襲われにくくなる 60mm 前後まで成長します。

【中間育成施設への移動を見学】



平成 25 年 6 月 6 日に行われたマダイ稚魚の中間育成施設への移動作業は、小島忠雄・つり環境ビジョン委員長、つり環境ビジョン事務局も視察しました。また、当日の様子は、釣具界、釣具新報、釣具新聞（業界 3 紙）及び、釣りビジョン、笠原出版社、地球丸、内外出版社、レジャーフィッシングの各媒体にてご紹介頂いております。

● 7月14日（日） マダイ種苗：カウント作業 見学会

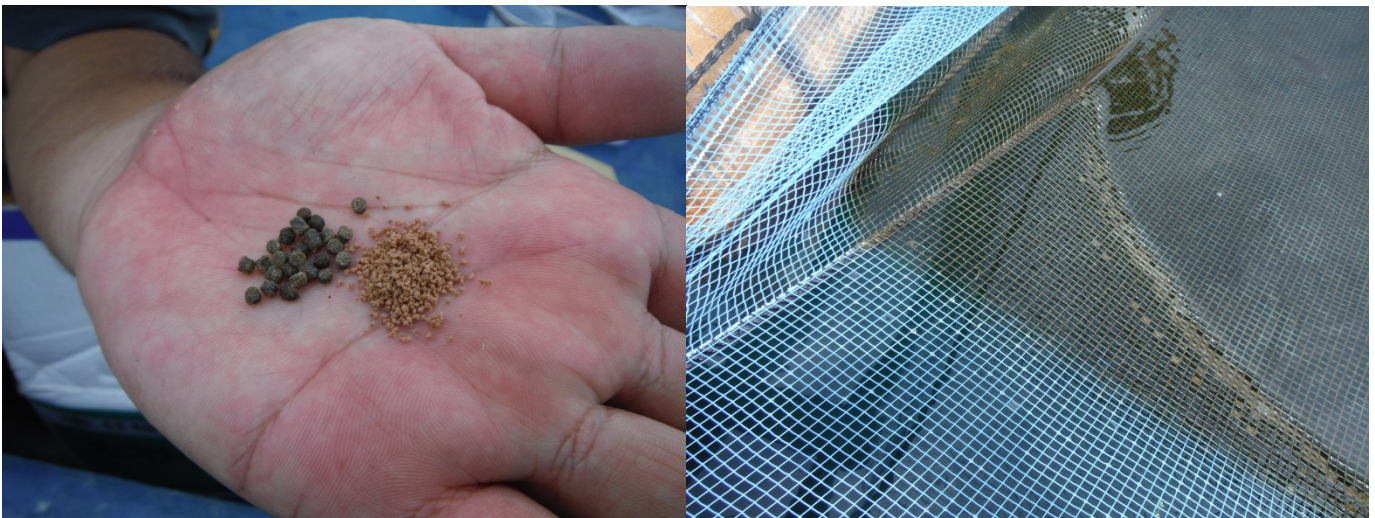




(公財) 神奈川県栽培漁業協会・職員 5 名にて、目視によるカウント作業。

- ・ カウント数 : 43411 尾
- ・ 全体飼育数 : 約 35 万尾
- ・ 全長組成 : 60 mm 46%
- 70 mm 4%
- 30 mm 6%
- 40 mm 11%
- 50 mm 33%

※1 日に約 1 mm 成長



・ 飼料 : 餌は配合飼料を使用。体長 40 mm 前後までが細粒状の「クランブル飼料 (右)」、40 mm 以上の場合は直径約 3 mm 程度の「EP 飼料 (左)」。

1 日に与える餌の量は体重の 5% が目安で、試算された 1 網分の種苗重量の 5% 分を、朝、昼、夕の 3 回、給餌します。

・ 生簀網は、種苗の成長に合わせて網目サイズを変更。7 月 14 日 (日) 時点で 7 mm サイズを使用。網は、沈下飼料や珪藻類等が付着する事で目詰まりし、酸欠を招く為、3 日～1 週間程度を目安に交換。また、珪藻類が生え過ぎるとフグ等に網ごと食い千切られるケースもあり、給餌作業と共に、日々の点検作業を行っています。

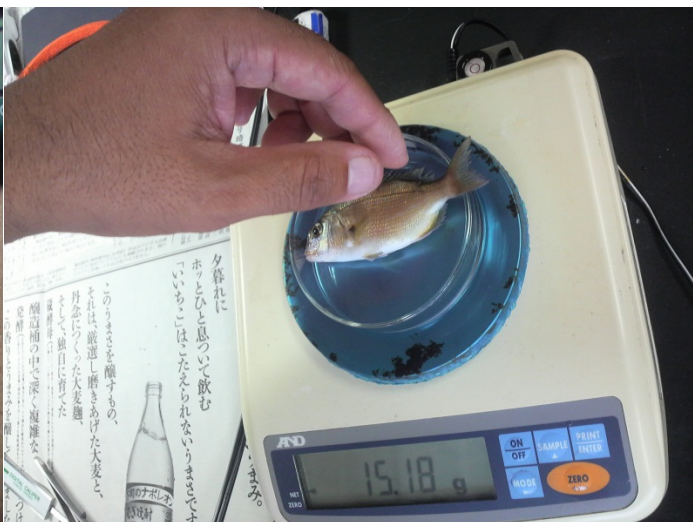
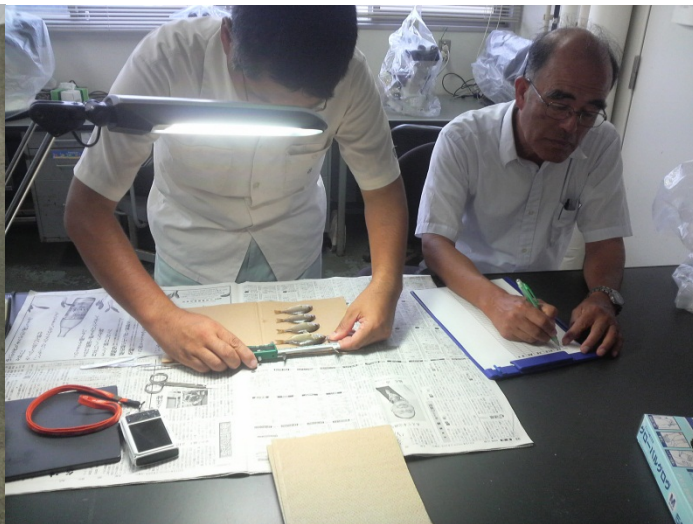
● 7月29日(月) マダイ種苗：鼻孔欠損確認作業他

場所：神奈川県水産技術センター

・計測結果 ※サンプル 100尾の平均値

全長：82.11 mm

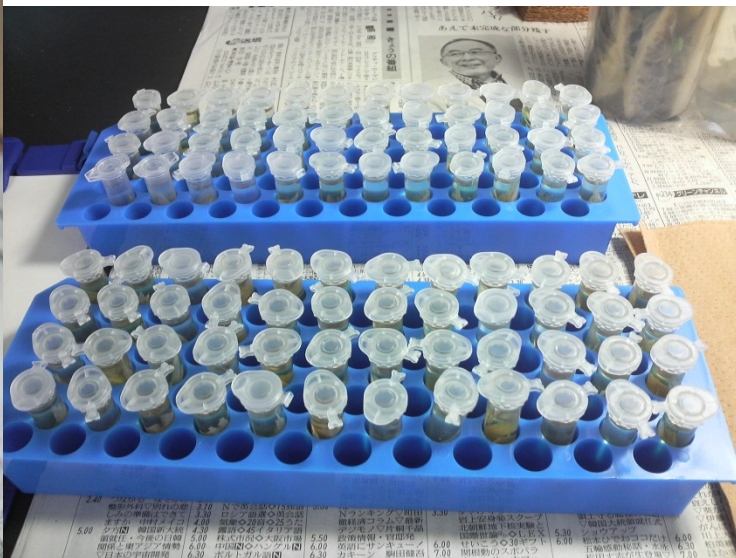
体重：10.34g



全長及び、体重計測作業。



鼻孔隔壁欠損確認作業。



放流後の追跡調査の為、DNA サンプルを採取及び保管。

●8月1日（木） マダイ種苗：総量確認作業

場所：小網代湾 （公財）神奈川県栽培漁業協会 中間育成施設（海上筏）



マダイ種苗の計量作業。



手順①：計量作業は、まず防鳥ネットを外し、生簀網を寄せてマダイ種苗を集めます。



手順②：秤を使い、まずは樽内に海水を入れ、海水の重量を計測。



手順③：次に素早くマダイ種苗を樽内に入れ、海水+マダイの総重量を計測。総重量から海水の重量を差し引いた数値がマダイ種苗の重量となります。



手順④：計測後は素早く空の網生簀に移します。マダイ種苗はとてもデリケートな為、一連の作業はスタッフ6名の流れ作業にて行います。

計測結果：1網分 約 520kg

「マダイ種苗 1匹約 10g」 ÷ 500kg = 1網分 = 約 5万尾強

●8月2日（金） マダイ種苗放流作業

小網代湾・（公財）神奈川県栽培漁業協会・中間育成施設（海上筏）より、マダイ種苗約 35 万尾を活魚運搬船に移動後、東京湾口「松輪沖」「横須賀東部沖」「金沢沖」の 3 地点より放流致しました。約 35 万尾中、20 万尾が「つり環境ビジョン事業」にて放流する総量となります。



中間育成施設である海上筏より活魚運搬船にマダイ種苗を移動。魚体を傷付けない為に活魚専用の特殊な網を使い、海水と一緒に掬い上げることで、移動時のストレスを最小限に抑えます。



活魚運搬船の甲板にはエアレーションのある生簀が設置される。放流時には生簀より海へと海水ごと放たれていきます。網は甲板上のクレーンにて安全に操作されています。



マダイ種苗移動後は、松輪沖より放流開始。(公財)神奈川県栽培漁業協会の過去データによる、安定した再捕が可能なポイントをGPS入力し、その地点から放流しております。今回は、事前のご案内により、新聞社1社、日釣工会員企業1社の方が見学において賜りました。「つり環境ビジョン委員会」の小島忠雄委員長も当日の作業を全て立会いました。



・平成25年8月2日
放流量内訳：総量35万尾
松輪沖：9万7000尾（内5万尾）
横須賀東部沖：16万7000尾（内10万尾）
金沢沖：8万6000尾（内5万尾）